

授業科目名： 顎口腔機能リハビリテーション論 (Rehabilitation theory of Stomatognathic function)	必修：歯2年	1 単位 15 時間	担当教員名： 科目責任者 野本 たかと 地主 知世、平岡 真実 (研究室 非常勤講師室)
		コード：DHL261	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅳ 健康づくりの実践 Ⅵ 多職種との協働			
〔授業の到達目標及びテーマ〕			
1. 口腔機能と摂食嚥下の正常なしくみの理解を基盤とし、口腔機能の検査、摂食嚥下障害の検査・評価方法を習得する。			
2. 摂食嚥下障害に対するリハビリテーションの方法を習得する。			
3. 口腔機能を維持・回復させるための援助方法と栄養管理について学び、歯科衛生士の役割を理解する。			
〔授業の概要〕			
口腔機能の低下、摂食嚥下機能の回復をはかるため、口腔領域の機能への支援や指導・生活復帰の訓練について総合的に理解し、リハビリテーションの意義、目的および基礎知識を学ぶ。			
高齢者や障害者の口腔機能管理と QOL を高める歯科的援助について総合的に考える。			
キーワード： 口腔機能、摂食嚥下障害、口腔機能リハビリテーション、高齢者、障害者、口腔ケア			
〔授業計画〕			
回 数	テ ィ マ	内 容	担当
第1回 (12/5)	口腔機能の維持・回復のための援助	口腔機能維持・回復のための歯科衛生士の役割	野本たかと
第2回 (12/12)	顎口腔機能リハビリテーション1	摂食嚥下機能に関する解剖・生理	地主知世
第3回 (12/12)	顎口腔機能リハビリテーション2	摂食嚥下障害の検査・評価法および他職種・地域連携による歯科衛生士の役割	地主知世
第4回 (12/19)	顎口腔機能リハビリテーション3	口腔機能に応じた栄養管理	平岡 真実
第5回 (1/9)	顎口腔機能リハビリテーション4	摂食嚥下障害をきたす障害とその特性 その1 発達期障害児者	野本たかと
第6回 (1/9)	顎口腔機能リハビリテーション5	発達期障害児者の摂食嚥下リハビリテーション	野本たかと
第7回 (1/23)	顎口腔機能リハビリテーション6	摂食嚥下障害をきたす障害とその特性 その2 中途障害・高齢者	地主知世
第8回 (1/23)	顎口腔機能リハビリテーション7	中途障害者・高齢者の摂食嚥下リハビリテーション	地主知世
履修条件	顎口腔機能論を履修していること		
予習・復習	口腔機能と摂食嚥下の正常なしくみについては教本を熟読し、講義内容は復習をすることを推奨する。		
テキスト	歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版 永末書店		
参考書・参考資料等	「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション第2版」公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版刊		
学生に対する評価	試験 (80%)、学習態度 (20%) により総合的に評価する。 結果に応じて、レポート措置を講じることがある。正当な理由で試験を欠席した場合は、所定の手続きによって追試験を実施する。		

授業科目名： 顎口腔機能リハビリテーション演習 (Rehabilitation practice of tomatognathic function)		必修：歯3年	1 単位 30 時間 コード：DHL361	担当教員名： 山中紗都〔歯科衛生士〕（研 究室 A410）、酒巻裕之、野 本たかと〔歯科医師〕
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅵ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 口腔機能の評価方法を学び、口腔領域の機能障害により日常生活に支障をきたした高齢者や障害者、有病者に対する リハビリテーションの方法を実践的に学ぶ。				
2. 歯科衛生士の役割について理解し、口腔機能を維持・回復させて日常生活を支援するための方法を学ぶ。				
〔授業の概要〕				
加齢や疾病により生じた口腔領域の機能（摂食・嚥下、構音、分泌など）の障害により日常生活に支障をきたした高齢者 や障害者、有病者に対し、歯科の知識と技術を活用してリハビリテーションを実施することで、機能の維持・回復をさせて 日常生活を支援する方法について実践的に学ぶ。				
キーワード： 口腔機能、摂食嚥下障害、口腔リハビリテーション、高齢者、体験学習				
〔授業計画〕				
回 数	テ ィ マ	内 容		担当
第1・2回 (4/9)	口腔機能の評価	口腔機能の測定		山中紗都
第3・4回 (4/16)	口腔機能の障害とリハビリテーション (1)	口腔機能訓練		山中紗都
第5・6回 (4/23)	口腔機能の障害とリハビリテーション (2)	言語聴覚士における口腔機能の評価と 機能訓練法		特別講義講師
第7・8回 (4/30)	口腔機能に関わる体験学習 (1)	義歯の疑似体験（マウスガードの応 用）と義歯の管理方法		山中紗都
第9・10回 (5/7)	口腔・鼻腔、気管内吸引と経管栄養	口腔機能体験実習口腔・鼻腔、気管内 吸引と経管栄養（経鼻栄養・胃瘻）		今井宏美 酒巻裕之
第11・12回 (5/14)	口腔機能に関わる体験学習 (2)	口腔機能体験実習		野本たかと 酒巻裕之
第13・14回 (5/21)	口腔健康管理 (1)	要介護高齢者における口腔衛生管理		山中紗都
第15回 (5/28)	口腔健康管理 (2)	周術期における口腔機能管理		山中紗都
履修条件		顎口腔機能リハビリテーション論を履修していること		
予習・復習		演習前には顎口腔リハビリテーション論、発達歯科衛生学Ⅱで学んだ知識や技術を復習するこ とが望ましい。		
テキスト		「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		課題・レポートの内容（70%）、学習態度（30%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	在宅歯科衛生管理論Ⅰ (Home Dental Hygiene ManagementⅠ)	履修年次:	1単位15時間	担当教員名: 山口朱見【歯科衛生士】 (非常勤講師室)
		必修:歯3年	コード:DHL362	
		実務経験のある教員による科目		
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力Ⅲ実践に必要な知識Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 在宅や施設での歯科衛生士の役割を知り、歯科訪問診療に必要な基礎知識、事例を通して在宅療養者の口腔健康管理および多職種協働の実践を理解する。				
〔授業の概要〕 在宅や施設では医療の視点だけではなく、生活の視点からの対応が必要であり、場の違いを理解したうえで歯科訪問診療や口腔健康管理を行う事が必要である。また、在宅や施設、地域における歯科衛生士の役割と基礎知識、多職種協働について学ぶ。				
キーワード:地域、歯科訪問診療、口腔健康管理、在宅療養者、多職種協働				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/11	歯科訪問診療1	歯科訪問診療について 歯科訪問診療の現状と問題点	
第2回	4/18	歯科訪問診療2	歯科訪問診療における歯科衛生士の役割 歯科診療時の留意点	
第3回	4/25	介護保険制度	介護保険制度について 歯科衛生士が関わる介護保険制度について	
第4回	5/2	在宅療養者の口腔健康管理1 事例紹介1	地域における歯科衛生士の役割 事例紹介	
第5回	5/9	在宅療養者の口腔健康管理2 事例紹介2	在宅・施設での歯科衛生士の役割、多職種協働について 事例紹介	
第6回	5/16	在宅療養者の口腔健康管理3 事例紹介3	在宅・施設での歯科衛生士の役割、多職種協働について 事例紹介	
第7回	5/23	歯科訪問保健指導1 歯科訪問保健指導2 (GW)	事例紹介からの考察 グループでの事例検討	
第8回	5/30	歯科訪問保健指導3 (GW)	事例検討グループ発表、まとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		次回の授業に関する部分を伝えるのでテキストに目を通す、復習は同ページの確認と授業時配布の資料を活用。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ:「高齢者歯科学」医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会 監修、資料配布		
参考書・参考資料等		指定しない、授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		課題レポート(60%)、学習態度(20%)、グループワークへの参加状況(20%)により、総合的に評価する。		

授業科目名： 在宅歯科衛生管理論Ⅱ (Home Dental Hygiene ManagementⅡ)	履修年次 歯4年	1単位15時間	担当教員名： 望月 由加里 〔歯科衛生士〕 (非常勤講師室)
		コード：DHL363	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、Ⅳ健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善、Ⅵ多職種との協働			
授業の到達目標及びテーマ] ・本授業では、地域包括システムの歯科衛生士の役割についての基礎知識を修得することを目標にして、以下のテーマで講義を進めてゆく。 ①高齢者の口腔機能向上と口腔機能管理 ②多職種連携の実践方法 ③地域包括ケアシステムでの歯科衛生士の専門性について			
〔授業の概要〕 地域包括ケアシステムにおいて、高齢者の口腔機能管理の歯科保健医療ニーズに対応するために、歯科衛生士の活動上で必要となる専門家としての基礎と実践力を習得し、歯科：歯科衛生士の実務経験より、高齢者の口腔機能向上や口腔機能改善管理指導計画立案や助言・指導に関する学習の支援を行う。			
キーワード：地域包括ケアシステム、介護予防、口腔機能管理、多職種連携、居宅管理指導			
〔授業計画〕			
回数	テーマ	内 容	
第1回(4/10)	ガイダンス 地域包括ケアシステムと 歯科衛生士の役割	履修の準備、受講に関する注意事項 高齢者を取り巻く環境と地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割	
第2回(4/17)	多職種連携における歯科 衛生士の役割	高齢者の心身機能の変化と多職種連携と歯科衛生士の役割	
第3回(4/24)	介護予防と口腔機能向上	介護予防事業と高齢者の口腔機能向上	
第4回(5/1)	高齢者の保健指導Ⅰ	高齢者の口腔機能管理	
第5回(5/8)	高齢者の保健指導Ⅱ	介護サービス計画書と高齢者の口腔機能向上の目標設定	
第6回(5/15)	高齢者施設での口腔ケ ア・マネジメント	入所者の口腔機能を維持向上と QOL	
第7回(5/22)	地域の社会資源づくり	地域の課題と地域の社会資源づくり	
第8回(5/29)	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし	
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。	
テキスト		最新歯科衛生士教本「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊。適宜プリントを配布する。	
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。	
学生に対する評価		レポート (50%)、小テスト (30%)、日ごろの学習態度 (20%)、により、総合的に評価する。	

授業 科目名	歯科衛生アセスメント論 (Dental hygiene process)	履修年次:	単位数: 1 単位 15 時間	担当教員名: 山中紗都 [歯科衛生 士] (研究室: 教育棟 A410)
		必修: 歯 3 年	コード: DHH253	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 V 健康づくりの環境の整備・改善, III 実践に必要な知識, VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科衛生士の活動を科学的に実践するために、必要な方法として歯科衛生過程を理解し、その手技を修得する。				
〔授業の概要〕 歯科衛生士の活動を科学的に実践するためには、情報収集、アセスメントをし、全体像を掴んだうえで計画立案を行い、実施、評価と円環的に進めていく。歯科衛生におけるアセスメントの意味、対象の全人的な把握をすることの重要性とその意味を理解し、アセスメント結果とその後の展開への関連づけを学ぶ。個性性を重視し、合理的・系統的に問題解決を行うことができる Problem Oriented System について学ぶ。本授業では、山中が歯科衛生士の実務経験に基づき講義を行う。 ----- キーワード: 歯科衛生過程、EBM、歯科衛生アセスメント				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/14	ガイダンス 歯科衛生過程とは	履修に関する注意事項、評価について、歯科衛生過程理論	
第2回	4/21	歯科衛生過程各論①	情報収集、情報の分類と整理、情報の解釈・分析	
第3回	4/28	歯科衛生過程各論②	情報の統合、歯科衛生診断	
第4回	5/12	歯科衛生過程各論③	計画立案	
第5回	5/19	症例分析	グループで分かれて症例を歯科衛生過程で分析、計画立案する	
第6回	5/26	症例発表	各グループで症例分析した内容を発表する	
第7回	6/2	ICFを用いたアセスメント	国際生活機能分類 (ICF) を用いた歯科衛生アセスメント	
第8回	6/9	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストの該当ページを熟読すること。		
テキスト		歯科衛生士教育サブテキスト やさしく学べるこれならわかる 歯科衛生過程 HAND BOOK、吉田直美他著、クインテッセンス出版		
参考書・参考資料等		授業内で随時紹介する。		
学生に対する評価		試験 50%、課題 40%、学習態度 10%により総合的に評価する。		

授業 科目名	保健行動科学論 (Health Behavioral Science)	履修年次:	単位数:1	担当教員名: 星野伸明 (非常勤講師室)
		必修: 歯 1 年	コード: DHH150	
〔DP〕 II コミュニケーション能力 IV 健康づくりの実践 VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
対象者の健康支援を行うために必要な保健行動科学理論を理解し、行動科学に基づいた健康支援アプローチ法の基本的知識と技術を学修する。				
〔授業の概要〕				
行動科学とは、人間の身体的側面のみならず、心理的・社会的側面を重視し人間を包括的にとらえようとする学際的な学問です。また、歯科衛生士が人びとと関わりその健康支援を行うには、コミュニケーション・カウンセリングが必須となります。行動科学に基づき、コミュニケーション・カウンセリングの基本的な知識・姿勢・態度を知り、人びとの保健行動への変容をどのように支援するかを学びます。				
キーワード: 行動科学、保健行動、行動変容、カウンセリングマインド、コミュニケーション				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	12/2	ガイダンス・概論	履修の準備、受講に関する注意事項および概論	
第2回	12/9	生活行動と感情	行動選択に影響を与える認知、感情の理解	
第3回	12/16	葛藤するところと適応行動	不健康行動がおこるころの仕組み	
第4回	12/23	コミュニケーション	コミュニケーションで使われる言語情報、非言語情報	
第5回	1/6	プロフェッショナルのコミュニケーション	プロフェッショナルとしての聴く力と伝える力	
第6回	1/13	保健行動の支援	セルフケア行動の支援	
第7回	1/20	保健行動と行動変容	行動目標化と行動支援	
第8回	1/27	まとめ	まとめ	
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
履修条件		特になし		
予習・復習		適宜、次回の授業で扱う資料を配布するので、あらかじめ目を通しておき、復習にも活用すること。		
テキスト		授業の中で印刷物を配布する		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 (50%)、課題 (30%)、日ごろの学習態度 (20%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科保健指導・健康教育論 (Dental hygiene instruction /oral health education)	履修年次:	単位数:1 単位 15 時間	担当教員名: 山村有希子(研究室 教 育棟 A409)
		歯 2 年	コード:DHH251	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, V 健康づくりの環境の整備・改善, IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
健康教育や歯科保健指導とは何かを理解し、主に個人を対象とした健康支援のために、健康教育や歯 科保健指導を実施に必要な基礎知識を修得する。				
〔授業の概要〕				
本授業では、歯科保健指導および健康教育とは何か、健康教育に関する対策、対象者の行動を変容さ せるために必要な理論やライフステージの特徴など健康教育や歯科保健指導を行うための基礎知識を 修得する。授業では、講義を中心に行うが、レポート等課題により学びの確認を行う。 本授業では、山村が歯科衛生士の実務経験に基づき講義を行う。				
キーワード: 健康教育、生活習慣、口腔衛生管理、口腔機能管理、行動変容				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	4/14	ガイダンス、歯科保健 指導・健康教育とは	履修に関する注意事項、評価について、歯科保健指導の 定義、法的位置づけ、健康教育の目的	
第2回	4/21	国の健康対策、歯科にお ける健康教育	歯科口腔保健法、健診、健康教育の方法	
第3回	4/28	行動と行動変容	行動変容とは、行動変容ステージ、自己効力感	
第4回	5/12	歯科衛生管理①	各ライフステージの特徴と歯科保健指導・食生活指導 (妊娠期～青年期)、食育、学校健康教育	
第5回	5/19	歯科衛生管理②	各ライフステージの特徴と歯科保健指導・食生活指導 (成人期～老年期)、生活習慣と全身、全身状態と口腔	
第6回	5/26	喫煙と禁煙支援	喫煙と健康、禁煙治療、禁煙支援	
第7回	6/2	歯科衛生過程と歯科保 健指導	歯科衛生過程の流れ、歯科衛生過程の中での歯科保健指 導	
第8回	6/9	まとめ・総括	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		授業ではレジメを配布するので復習すること。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論、全国歯科衛生士教育 協議会監修、医歯薬出版		
参考書・参考資料等		授業内で随時紹介する。		
学生に対する評価		試験 50%、課題（レポートなど）50%により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科保健指導演習Ⅰ (Seminar on dental health education and counseling)	履修年次:	単位数:2 単位 60 時間	担当教員名: 科目責任者 山村有希子 (研究室 教育棟 A409) 松木千紗・山中紗都
		必修: 歯 2 年	コード:DHH351	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅳ 健康づくりの実践,Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科保健指導を行うために必要な基礎知識ならびに技術、態度、具体的な処置について十分理解し、 その手技を修得する。				
〔授業の概要〕 人々の健康支援を実践するための基本的技術（口腔内観察、清掃効果評価など）を修得する。また支 援時に対象者との関係構築や対象者理解に必要なカウンセリングの基本的スキルを学ぶ。本授業では、 山村・松木・山中が歯科衛生士の実務経験に基づき講義・演習を行う。				
キーワード: プラークコントロール、カウンセリングスキル、行動変容、コミュニケーション				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第1回	10/2	ガイダンス・口腔内観察	演習の予定、評価、注意事項・口腔内 観察	山村・松木
第2回	10/9	口腔内写真撮影①	口腔内写真撮影（模型）	松木千紗
第3回	10/16	口腔内写真撮影②	口腔内写真撮影（相互）	松木千紗
第4回	10/23	口腔内写真撮影③	口腔内写真撮影（相互）	松木千紗
第5回	10/30	プラークコントロール①	口腔清掃道具・各種ブラッシング方法	山村有希子
第6回	11/6	プラークコントロール②	歯磨剤・歯垢染色	山村有希子
第7回	11/13	ブラッシング指導方法①	ブラッシング指導方法演習基礎	山村有希子
第8回	11/20	ブラッシング指導方法②	ブラッシング指導方法演習応用	山村有希子
第9回	11/27	口腔清掃用品の選択法①	歯ブラシと歯磨剤（LION）	特別講義講師
第10回	12/4	口腔清掃用品の選択法②	洗口剤・保湿剤（サンスター）	特別講義講師
第11回	12/11	口腔清掃用品の選択法③	音波ブラシ・口腔洗浄器（モリタ）	特別講義講師
第12回	12/18	ブラッシング指導③／ 口腔清掃用品の選択法④	インプラントにおける口腔清掃／電動 歯ブラシ（松風）	山中紗都／ 特別講義講師
第13回	1/8	カウンセリングの基本理 論	カウンセリング技法・医療面接（講 義）	山中紗都
第14回	1/22	カウンセリング演習	カウンセリング技法・医療面接	山中紗都
第15回	1/29	まとめ	学習成果について、まとめ	山村・松木
履修条件		歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導論・健康教育論の単位を 修得済み、又は単位修得見込みであること。		
予習・復習		授業ではレジメを配布するので復習をすること。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論、全国歯科衛生士教育協議 会監修、医歯薬出版		
参考書・参考資料等		適宜、授業中に紹介する。		
学生に対する評価		課題（記録、口腔内写真等）80%、試験 20%により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科保健指導演習Ⅱ (Seminar on dental health education and counseling)	履修年次:	単位数:1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 山村有希子 (研究室 教育棟 A409) 松木千紗
		必修: 歯 3 年	コード:DHH352	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・環境, Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人々の健康支援を実践するために、歯科保健指導・健康教育に必要な知識・技術・カウンセリングスキルを理解し、歯科保健指導・健康教育の実践方法を修得する。				
〔授業の概要〕 ライフステージ別の特徴を理解したうえで、対象者別における歯科保健指導について基礎知識を学び、ロールプレイを行うことで、歯科衛生士としての口腔衛生管理を学ぶ。 本授業では、山村および松木が歯科衛生士の実務経験に基づき講義を行う。				
キーワード: 口腔衛生管理、事例別歯科保健指導、カウンセリングスキル				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	5/29	ガイダンス	演習の予定、評価、注意事項、次回までの課題	山村有希子 松木千紗
第2回	6/5	対象者別保健指導①	1歳半・3歳児健診、保育園・幼稚園における歯科保健指導（講義）	松木千紗
第3回	6/12	対象者別保健指導②	仕上げ磨き（講義・演習）	松木千紗 山村有希子
第4回	6/19	対象者別保健指導③	1歳半・3歳児健診、保育園・幼稚園における歯科保健指導（演習）	松木千紗
第5回	6/26	対象者別保健指導④	歯科衛生士としての禁煙支援（講義・演習）	山村有希子
第6回	7/3	対象者別保健指導⑤	義歯装着者に対する歯科保健指導／外科手術後・抜歯後における歯科保健指導（講義）	山村有希子
第7回	7/10	対象者別保健指導⑥	義歯装着者に対する歯科保健指導／外科手術後・抜歯後における歯科保健指導（演習）	山村有希子 松木千紗
第8回	7/17	まとめ	学習成果について、まとめ	山村有希子 松木千紗
履修条件		歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導論・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。		
予習・復習		歯科保健指導の展開では、担当するライフステージに関する基礎知識として、全身状態、口腔の特徴についての事前学習が必要である。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論、全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版		
参考書・参考資料等		必要に応じて授業中に紹介する。		
学生に対する評価		課題 40%、試験 60%により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科衛生統計演習 (Dental biostatistics)	履修年次: 必修: 歯 3 年	単位数: 1 単位 30 時間 コード: DHH372	担当教員名: 科目責任者 田代宗嗣 [歯科医師] (研究室 教育棟 A407) 大川由一 [歯科医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅲ実践に必要な知識、Ⅳ健康づくりの実践、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、歯科臨床や地域歯科保健に必要な基本的な統計学を修得することを目標に以下のテーマで演習を行う。 ・口腔疾患の疫学的特性を理解できるようになる。 ・口腔疾患（う蝕、歯周病等）や口腔清掃状態等の疫学指標を理解できるようになる。 ・歯科臨床および地域歯科保健に関連した疫学的データの処理と活用法を修得できるようになる。

〔授業の概要〕 口腔の疾病・異常の現状把握や予防対策のためには、歯科臨床や地域歯科保健にかかわる情報の有効活用と統計学の理解が必要となる。歯科衛生統計演習では、歯科領域特有の疫学的特性や疫学指標を学ぶとともに、データ処理と統計解析の基本を修得する。本授業は田代、大川が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。

キーワード: 口腔疾患、う蝕、歯周病、疫学指標、統計解析				
------------------------------	--	--	--	--

〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1・2回	4/15	保健情報と保健統計	保健情報と保健統計の意義 口腔保健に関係のある主な国家統計	田代宗嗣
第3・4回	4/22	保健情報と疫学	疫学総論・疫学の方法論	田代宗嗣
第5・6回	5/13	歯科疾患の指数（1）	う蝕の指数・歯周病の指数・口腔 清掃状態の指数	田代宗嗣
第7・8回	5/20	歯科疾患の指数（2）	その他の指数（歯のフッ素症、不正 咬合等）、保健情報の収集	田代宗嗣
第9・10回	5/27	口腔保健情報の分析（1）	口腔保健情報の統計演習（1）	田代・大川
第11・12回	6/3	口腔保健情報の分析（2）	口腔保健情報の統計演習（2）	田代・大川
第13・14回	6/10	口腔保健情報の分析（3）	口腔保健情報の統計演習（3）	田代・大川
第15回	6/17	情報の保護と倫理・総括	情報社会の特性と問題点、個人情報 の保護	田代宗嗣

履修条件	統計学を履修済みであることが望ましい。
予習・復習	授業に関する資料を配布するので、予習・復習に活用すること。
テキスト	歯科衛生学シリーズ「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験（90%）、日頃の学修態度（10%）により総合的に評価する。